動く世の中、視点を変えれば見えてくるものがある。ホンネで言いたいことがある。

瓦ばん！

平成21年7月13日発行　季刊
発行責任者：根っから地元派　ばん　よしはる
ban-4@ares.eonet.ne.jp

第8号

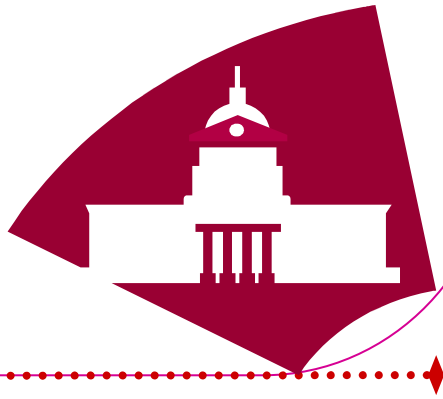
こんにちは、ばんよしはるです。
ほんまに暑い日が続きます。みなさん、お身体にはくれぐれも気をつけてください。

さて、もう少しで間違いなく総選挙があります。
どの政党が政権をとろうが、これを機に真の国益を追求する政界再編を推し進めていって欲しいと願います。
しかし、どうやら日本政界は混迷の時代に突入しそうに感じている方も多いのではないでしょうか。
だからこそ、地方が頑張らないといけないんです。

最近思うことは、私が行政書士として役所に許認可の届出を提出したときの役所の対応。また、いろいろな住民の声に対する行政の対応についてです。
「行政マンは、法や規則のみに則して判断、ようするに許可・不許可だけを下すことが職責なのか？本当は、もっと別のところに重点をおくべきではないのか？」そのように私は思います。しかし、行政は「法で決まっていますから」の一辺倒・・・
根拠法のみを論ずるのであれば、弁護士や裁判官がいれば足りる話ですが、法だけでは図れない場合があります。そんなとき、行政が生活する住民の納税者の皆さんの立場に立ち、総合的な見地で行政判断し、必要と思えばその声を対外的に発信していくことが大切になってくるのです。すなわち、その担当者の感性が行政の要になるというわけです。

我が斑鳩町役場は、私がいろいろな役所にいくなかで、住民の声を聞き柔軟な対応ができる行政に属すると思います。
しかし、民間の感覚では、考えられないと思うこともある。
これからは、住民の皆さん、そして行政の考えをシッカリと聞かせていただき、少なからず住民の皆さんの「不安」を取り除いていくことができればという気持ちで、引き続いて誠実に行動したいと思っています。

斑鳩は歴史、文化、自然に恵まれたところです。
まず、この先人の教えを理解し、それを活用する方法に力を注ぐことが不可欠です。
そして、そこが動いていないことからの脱却こそが、今、政治が直面する問題になるはずです。



この「瓦ばん！」では町議会議員の毎日の中で感じたこと、活動や思ったことを紹介していきますので、皆様からのご意見・ご感想がありましたら、お知らせ下さい。宜しくお願いいたします。